



議会だより



働く人 — 『やりがいがあります!』

● **特集** 水を制する者が新しい川西町をつくる P2~3

● 町政をただす 健全財政の確立・高速通信の地域格差・「ふるさと」を大いに論ぜよ P4~6

● 決算審査 じっとがまんて財政健全化へ P7~9

● 町民の声 ダリアの里川西は、とてもいい! P13

水を制する者が新しい川西町をひらく

住民・行政の協働で新水環境整備事業を

水は命の源

特集
追跡レポート

私たちは、常日頃水の存在に対し有るのが当たりままで、水に不自由を感じない生活を送ることができた、大変恵まれたときに生まれ合わせたものだと思う。川西町は、

もともと水の豊かな地域だったのではない。沢に奥行きがないため、河川の流量は、民生用としても、農業用水としても決して充分なものではない。

時は寛政の初年、奥田

村の横山平左衛門という人が飯豊山参詣の途中地蔵嶽から種蒔山に行くところに隋道を掘って飯豊の御沢の水、すなわち新潟県側に流れていく横川上流に落ちる水を白川上流に落とせば水量が多くなるばかりか奥田大舟方面にも灌水できるのでないかと米沢藩に意見を具申した。藩は黒井半四郎に命じ実地検分をさせ、様々な難問を解決し苦行難行の末二十年の年月を経てようやく穴堰の完成を見た。また、黒井半四郎は、窪田から松川の水

をあげて、糠野目沖郷方面および吉島に灌漑する黒井堰の開削も行い、農業用水の確保に多大な貢献があった。

このような歴史を背景に現在の「水」がある。「水」の少ないいわが町で

農業こそ水管理の第一人者

農業水利を円滑に保ち農業経営の改善を目指し土地改良事業が昭和四十年頃から大規模に進められてきた。

米沢平野土地改良区管内の関連面積一、九〇一・七ha、白川土地改良区管内関連面積二、一九九ha、その他に属する区域五七九・三haで我が町が有する合計水田面積は四、七八〇haである。農業を営む農家の人たちは常に排水路の管理について、草を刈り泥を上げ日常当たり前の感覚で管理に当

は、今、白川ダムや水窪ダムに水源を求め農業用水としている。先人の労苦と莫大な投資の上で現在の生活が成り立っている事を改めて思い知るのである。

たってきた。しかし、社会情勢の変化により農業に携わる人が段々少なくなり管理体制も徐々におろそかになってきている。

ところで、町の水田すべてに一〇cmの貯水をした場合、五〇〇万トンの小型ダムとなる。このダムが洪水調整や貯水池としての役割を果たしているのだ。又、田に付随している用排水路は潤沢な流量の調整や自然の浄化にも一役かっている。昔の言葉に「三尺流れると水清し」とあるように、



水利は農業の命脈



農家の細やかな日常管理が地域の水環境を円滑に保ってきたのだ。も

ちろん、多くの家々ではこれを生活用水としても利用したのである。

上水道は文化のバロメーター

「ひねるとジャー」の愛称で毎日何の心配もなく私たちの日常生活に欠くことのできない水道。わが町の水道事業は、昭和三六年事業認可を得てから四五年、年間約二百万^mの水道水を供給している。水道があることで炊事・洗濯・風呂・トイレ・身の回りす

べてで、生活の様式が近代化し、庭の花のみずやり、園芸・畜産にいたるすべてに水道は使われている。町の主水源であった諏訪浄水場は老朽化が激しく使用に耐えられない状態だが、今は一日も早い綱木川ダムの完成が望まれる。

下水道は環境浄化の立役者

わが町の下水道事業は公共下水道事業では、昭和五七年より始まり現在の水洗化率は六五・八%である。農業集落排水事業も平成五年から中大塚地区より開始したが、この水洗化率は七・九%となっている。

合併浄化槽については現在七七五基設置され一八・五%の普及率である。これらの合計で町全体の生活排水処理水洗化率は四四・九%の状況にある。下水道整備は本年度で一時中止となるが、今

後の目標としては、公共下水道の接続率を高めながら合併浄化槽の普及に努め、水の有効利用を考えたきれいな町づくりがテーマとなる。

新水環境整備事業を

駆け脚ながら、本町の水事情についておさらいをしてみた。西から、東から農業用水を求めて苦闘してきた農家の歴史。

古い農家の「入り水」には必ず水神様の小さな祠がある。それは水が豊かに流れるばかりではない。沢に奥行きがないということは同時に、一たび集中豪雨などがあれば、一気に増水し、氾濫することたびたびであった



「ひねるとジャー」が大好きです！

ということを意味する。折りは荒れを鎮める行為でもあった。

先にも触れた土地改良事業は、基本的に農地の整備事業であったため、整備除外区域となった市街地や集落内の既存の水路は、改良後の水路と接

点のないままになっていく事例が多い。つまり、集落内に水路がどうし接続の無い水路ができてしまったのである。水神様も困っているだろうが、流れのない水路は環境の悪化を引きおこしてもいい。

本定例会において、現在進行中の環境基本計画に、この課題の解消を施策としてよりこむよう要望が出され、十八年度中に調査が行われることとなった。

改良区との話し合いはもちろん、行政、住民の協働で「水を制」しなければならぬ。



全く流れていない中小松堀

町政をただす

健全財政確立と人件費の削減は

町長 集中改革プランを進め職員二〇〇人以下に努めたい



高橋 照夫 議員

三位一体改革での財政確立は

高橋 本町の財政状況は歳入構造の変化に伴い、大変厳しく、なかでも地方交付税は平成十一年度をピークに年々交付額が減少し、平成十六年度はピーク時より十三億五千万円減少している。

現在、三位一体改革が実施されるなか、地方交付税依存度の高い本町財政運営にのっての健全財政基盤確立に向けた具体策は。

町長 歳入の確保と歳出の一層の見直しを図り、

行政のみならず町づくりのあり方について、町全体として意識改革と構造改革が必要であり、新行財政改革に基づき、聖域を設けることなく見直しを進める。更に今年度は大綱をベースに数値目標を盛り込み、より具体化した今後五年間の「集中改革プラン」を進めていく。



大課制による事務の効率化を目指す

人件費削減の数値目標は

高橋

平成十七年度当初予算額における人件費は歳出構成比の二七・一％であり、職員給与費は人件費全体の八八・九％を

占めている。行財政改革では職員給与等の見直し、定員管理計画がかかげられているが、具体的な人件費の削減、圧縮等と職員の定員の適正管理計画による数値目標は。

町長 特殊勤務手当の見直し等も行い、人件費の削減に努める。また、平成十七年人事院勧告の骨子が示され、地域別の官民格差是正により給与を平均四・八％引き下げる内容であり、その内容を精査し給与条例等を改正する予定である。

また、具体的な職員数の数値目標は、国から五カ年で四・六％以上削減するよう求められている。将来的には、現在の二百八十二人から二百人以下に抑え、人件費を圧縮する。

高橋 健全財政確立に向けての町民に期待するものは。

町長 情報の共有化を図り、住民参画を積極的に進め「協働のまちづくり」に取り組み、行政依存から脱却し、自ら行動し行政をリードする気持ちは持っていただきたい。

高速通信の地域間情報格差をなくして

町長 一日も早い解決が必要、次年度には整備したい



横山 明博 議員

横山 現代はまさに情報
化社会。

経済はもとより、文化

活動、日常生活すべてに
おいてパソコンの存在し
ない状況は考えられない。

情報伝達が遅く処理能力
の少ない回線に苦悩して
いる地域を、一日も早く
インターネット高速通信
が可能な地域整備を願
いたい。

町長 本町における情報

通信の基盤、中でもイン
ターネットの高速通信の
状況については、平成八
年九月よりCATVの
ケーブルが延伸されたこ
とによりエリアカバー率
は四〇・七%、平成十四年
八月から電気通信事業者
による整備がされ、電話
回線でのADSLのカ
バー率は七八・八%と
なっている。しかしなが
ら、電話局番の四四局お
よび四八局の区域は、指
摘のとおりISDNのま
まとなっており、回線飽
和のため新規加入できな
い状況にあり、大きな情
報格差が生じていると認
識している。今後も引き
続きこの状況を強く、総
務省東北総合通信局や県
に対し現状を訴え、また、

電気通信業者へも強く要
望を行い、情報格差の解
消に向け努力する。なお、
町としても要望に応えら
れるよう平成十八年度に
は整備出来るよう努力し
たいと考えている。

自治会未加入者

への対応は

が想定される。活気あふ
れる町づくりを進めるに
は地域を構成するメン
バーを正確に把握しあつ
ていく事が大事と思うが
これからの町の指導体制
をどう進めるか。

横山 最近特に生活環境
の変化から、世代間の絆
が薄れているように感じ
てならない。お互いに溶
け込んだ生活空間がほし
いと感じている。そんな
時、わが町の最近の自治
体における自治会未加入
世帯を調べてみたら、な
んと三百四十世帯が未加
入世帯であった。地域に
おける社会通念が薄れて
きている。共同で物事を
解決しようとか、共同体
が力をあわせ物事を作り
上げる事が少なくなつて
来ている。社会共同体を
構築しておかなければ、
社会的事件や災害時の対
応などに対し困難な状況

町長 町内には百五十八
の自治会があり、「最も住
民に対し身近な自治組
織」として、特に自治会
長には町と自治会との橋
渡しにご尽力をいただい
ている。未加入世帯につ
いては現在三百四十世帯
となっており、その約四
割の百二十六世帯はア
パートの集合住宅で、約
半数の百六十五世帯は単
身世帯の状況にあり、諸
般の事情により行事等へ
も参加できない実態と聞
いている。町ではまちづ
くり基本条例を制定し、
行政と住民が連携したま
ちづくりを進め、未加入
世帯の方々にも地域活動
の大切さや自治会の構成
員となるよう理解を求め
ていく。



事務作業の主役になったパソコン

将来のふるさとを大いに論じよう

町長 今こそ新しい視点でムラづくりを



黒澤 巖 議員

「食育」への取り組みを加速せよ

黒澤 本年七月、食育基本法が成立したが、これによると、自治体は食育推進計画を策定し、推進会議を設置し、さらに専門職である栄養教諭を学校に配置することとなっている。本町での進め方は。

教育長 食育教育の具体的な事例としては、小松小の保健安全指導部、高山小のいのち指導部、そして一中の生徒指導部などの取り組みが報告されているが、計画策定や推進会議の設置については各

市町村の動向を見極めながらとなる。

栄養教諭については、

置賜管内の資格取得者は



はたして村祭りを残せるか

三人、その他十六人の方が資格取得をめざしているという現状である。これらの方の学校配置は今後の研究課題である。

黒澤 「ゆとり教育」の直しと学力向上重視の傾向が強まる中、教育現場にはたして食教育の十分な時間と余裕があるか疑問だが、食教育は「生きる力」の基本、二十一世紀的テーマだ。ぜひ取り組みを加速されたい。

三人、その他十六人の方が資格取得をめざしているという現状である。これらの方の学校配置は今後の研究課題である。

「ムラはどうあればよいか」

を先ず議論すべき

黒澤 「新たな食料・農業・農村基本計画」が策定され、平成十九年よりスタートとされる「データ」と「ナラシ」の経営安定対策も提示された。現在、全国の農村で地域ビジョン作りをむけて基礎的な論議が展開されているが、情報が小出しにされているため生産的な話し合いになっていない。

営農集団が特定農業団体となる要件についても、有限責任事業組合となる道筋についても不確定部分が多すぎる。

さらに問題なのは、これが、たかが農業経営基盤強化といいながら、将来の日本農村のあり方にも踏み込んだものとなっていることだ。法の理念に沿って言えば、このたびの大改革は、自治体の町づくりビジョンとの整合性など、市町村の裁量の余地が大きいと思われるが。

町長 農業が効率性や食料生産のみを尺度にした時、人と人とのつながり

は分断され、価値の多様性も存在できず、自然と人間の共生も破壊され、さらに生命の連鎖は断ち切られてしまうと考えている。今こそ新たな視点で、ムラづくり、まちづくりが求められているのではないか。政策上の種々の要件については、まだまだ議論の余地があり、的確な情報の提供に努めたい。

黒澤 生産構造の論議の前提として、国民にとって日本のムラはどうあればよいか、すべての川西町を「ふるさと」とする人々にとって集落はどう変化していくのが良いのかという論議と合意が必要だ。「ふるさとの村を考える懇談会」というようなものの設置を提唱したい。

まさかとは思いますが、町中のムラに時代おくれの人民公社が出現したり、企業の傘下農園ばかりという事態が起きかねない」と心配する。

平成十六年度 じつとがまんて財政健全化へ

町債(借金)残高 七億五七〇〇万円の減少

平成十六年度の一般会計と介護保険など六つの特別会計及び公営企業である水道事業会計の決算の認定を求める案件が町長より提出されたのを受け、議会では決算特別委員会を設置、三つの分科会に分かれて審査を行った。「財政再建元年」「ハードからソフトへ」の言葉どおりの結びとなって、最終日全員賛成により各会計とも可決認定された。



この子たちの未来にツケを残したくない

ページ構成のつごうで

見づらくなつたが、一枚めくって次のページをご覧ください。図表に見るとおり、わたしたちの町の昨年の決算は、歳入(収入)が九九億九一七一万円、歳出が九九億二五二四万円となつた。

差引き六六四六万円残つた計算のだが、残念なことに昨年の場合は、財政調整基金という安全弁用の積立金から一億三四〇〇万円余の取崩しをしているため、実質は、一億一二七七万円の赤字となる。

さて、歳入では、全体の四七・七%を占める地方交付税(国から配分されるお金)が公立置賜総合病院へのトンネル分を

差引くと実質三四億四七〇〇万円弱となり、前年比二億八〇〇万円程減少したこと、住民税・固定資産税などの町税収入の伸びが見られなかったことなどから拡大する要素はなかつたのだが、償還期限を延長したり、金利の安いものに借り直したりといった借換債を一三億七二〇〇万円発行したため、見かけ上は増大した。

一方、歳出では、支出全体の二二・一%を占める人件費が前年比四・八%、金額で一億一〇〇万円ほど減少するなど、消費的経費の抑制がす

バブルのつけようやく改善のきざし

以上のような財政運営によって、町債残高は十六年度末で一〇四億二六〇〇万円余と前年比七億五七〇〇万円減少した。平成二年当時六五億四〇〇〇万円であつたこの

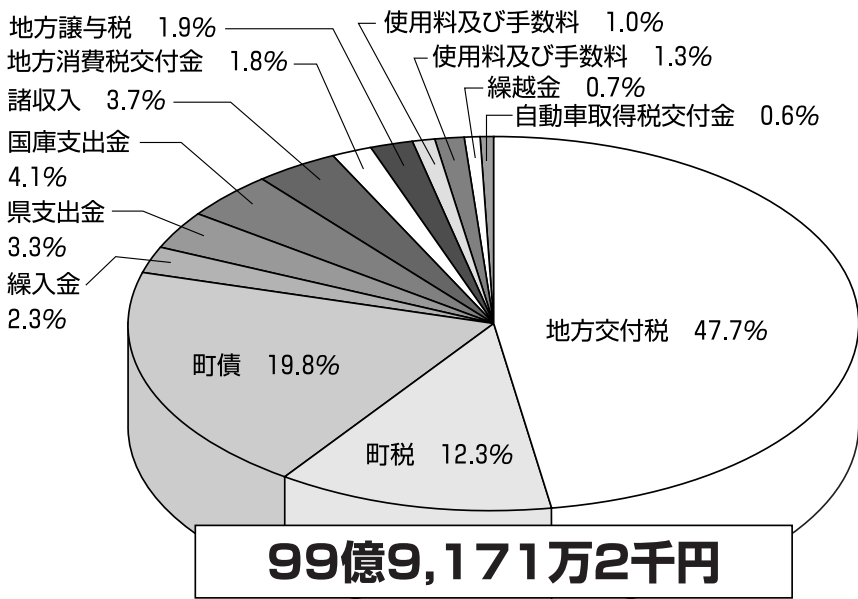
められている。投資的な経費では、普通建設事業費が補助事業で六四・六%の減、単独事業も一〇・七%減となつたことからトータルで前年比二五・二%の減。実額でおよそ四億円である。これは主要事業が一段落したことによるが、例えば平成十四年当時は一三億円を超えていたことを考えると隔世の観がある。

公債費(借金の返済にむかうお金)では、先に述べた借換債を発行するにあたって一部繰上償還をしたことにより一二億七四〇〇万円ほど増加した。

残高は、バブル以後の大規模事業の取り組みで、十三年度末には一二一億五一七五万円にまで巨大化した。ようやく改善の緒についたといえるだろうか。

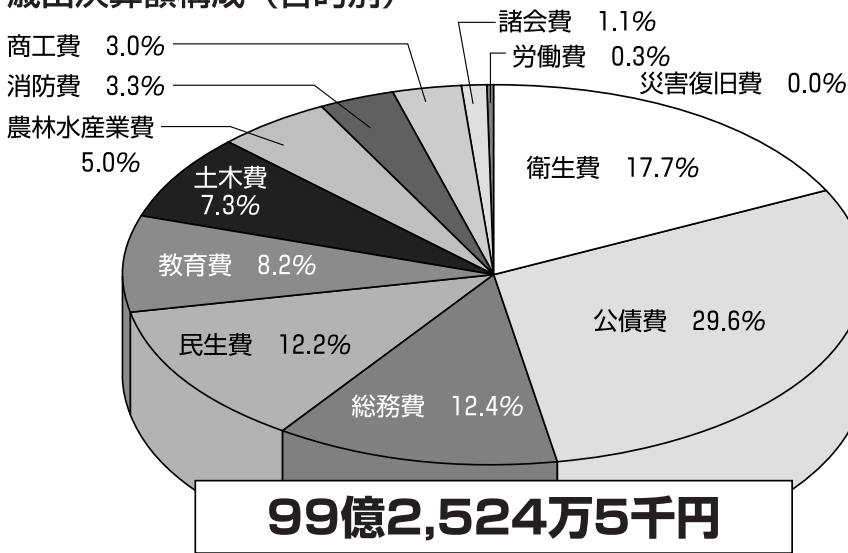
平成16年度 一般会計決算状況グラフ

歳入決算構成



歳入	決算額
地方交付税	4,722,501
町税	1,222,707
町債	1,961,400
繰入金	224,197
県支出金	329,906
国庫支出金	403,398
諸収入	364,854
地方消費税交付金	176,800
地方譲与税	184,300
使用料及び手数料	102,850
財産収入	85,567
繰越金	64,828
自動車取得税交付金	63,500
地方特例交付金	33,609
分担金及び負担金	62,212
ゴルフ場利用税交付金	14,300
利子割交付金	9,800
交通安全対策特別交付金	4,400
寄附金	3,068

歳出決算額構成 (目的別)



歳出(目的別)	決算額
衛生費	1,795,384
公債費	3,002,149
総務費	1,253,227
民生費	1,236,236
教育費	831,902
土木費	470,121
農林水産業費	504,545
消防費	333,499
商工費	300,119
議会費	111,464
労働費	27,292
災害復旧費	998

分科会審査のあらまし

第一分科会

問 放課後児童クラブの運営状況は

答 川西町社会福祉協議会に委託しており、開設日数は月曜から土曜日まで年間二八六日、登録児童数は十九人であった。専任の有資格者二名で対応している。

第二分科会

問 戦没者追悼式には、戦後も六十年を経て遺族の参加者も減少しているようである。小中学生をはじめ町民が広く平和を祈念するような形式に変えることも考えては

答 追悼式は遺族会との協議により開催してきたが、今後関係団体との協議の場で検討する。

問 社会福祉協議会への財政支援とその評価は

答 生活相談、ボランティア支援、福祉資金の貸付など行政を補完する公共性の高い業務を担っており、ホームヘルパー事業についても、本町の

介護サービス需要に充分応えていると評価している。

財政支援については、介護事業所に関する業務以外に要する人件費を基準とした支援を図っている。

問 環境汚染実態調査の結果は

答 眺山最終処分場周辺、山口沢川、ピックファーム室岡等の水質調査を行ったが、いずれも水質汚濁防止法の基準値内の数値であった。

第三分科会

問 新規作目導入資金貸付事業の執行率が低いようだが。

答 認定農業者が経営改善計画に基づき、新規作目を導入する際にのみ対象となるためである。



決算審査の各分科会では、担当課の説明の範囲をこえる問題について、町政の責任者である町長の出席を求め、直接に政策を聴く機会を設けた。質疑の主な内容は次の通り。

問 町税・水道料・国民健康保険税などの収納率の低下は、財政再建の脚を引っぱりかねないが、**町長** 確かに年を追うごとに滞納者が増加しており、本年六月三十日現在で、町民税ほか七税目でその対象者は、法人一二一社、個人九四二人。額にして七億一七八万五五七〇円に上る。

この対策については、これまでの手法ではなかなか効果が期待できないところから、分納計画提出者への催告や、不動産の所有状況、収入実態の把握を行い、差し押さえなど滞納者整理に迅速に結びつく体制をとりたい。**問** 小松地区内主要水路は一定の農業用水の需要期以外は雨水と生活雑排水が流れるのみとなるため、環境悪化の要因と

なっているが。

町長 公共下水道整備事業と水利団体との連携不足や、基本的に本町の水資源が潤沢でないことの原因があり、幹線水路からの水の提供など、国、県、土地改良区と協議をしていきたい。また各地区集落内における水環境整備についても調査し、十八年度以降検討していく。

問 下水道事業の今後については。

町長 公共下水道事業は今年度末で認可区域の八一・九%の整備率、特定環境保全事業については九五・七%となる。住宅地の一応の完了をみたので、財政的負担を考慮して整備事業を一時休止する。

今後は、公平性を考え合併浄化槽を促進する。

平成16年度特別会計

会計名	決算額
国民健康保険事業特別会計	17億471万円
下水道事業特別会計	8億7,200万円
老人保健特別会計	21億9,430万円
農業集落排水事業特別会計	8,593万円
老人訪問看護事業特別会計	1,752万円
介護保険事業特別会計	12億5,770万円

総括質疑

強力な収納対策を

問 厳しい財政状況の中、財源確保及び負担の公平の観点からも強力な対策が必要とあるがその対策についての代表監査委員の所見をお伺いしたい。

代表監査委員 特定未納者を除き、滞納額は二億六五〇〇万円である。現在、嘱託職員二名配置により週五日、三十三時間収納にあたり成果を上げている。しかし、広範囲で件数も多く対応しにく

高橋 照夫 議員

い状況にある。また、事務繁忙から職員による収納は難しい。より効果的に収納するには嘱託職員を増やすことが望ましい。

下水道特別会計の今後は

黒澤 巖 議員

問 監査報告書に、下水道処理原価は、あたり八五四円、使用料は一六一円との指摘がある。整備事業は一時休止となったが、この後この逆ザヤは解消にむかうのか

代表監査委員 今後この状況が続くと思われる。**問** 下水道事業は五十四億円強の借金を持っているが、これも今後長く返済し続けることになる。この際に交付税による手合

てがなされる約束のほすがが見通しは、**町長** ランニングコストと逆ザヤ分、それに償還金を負担しつづけることとなる。

指定管理者導入で

よりよいサービスを期待！

川西町都市公園条例等の一部改正

平成十八年四月一日より導入予定の指定管理者に係る各施設8条例（川西町都市公園条例・川西町克雪管理センター条例・川西町教育施設等の使用に関する条例・川西町体育施設条例・川西町浴センター条例・川西町農村公園設置条例・川西町公民館条例・川西町農業振興センター条例）の一部改正であり、その概要は「管理委託」に関する規定を削除し「指定管理者による管理」に必要な事項を規定したものである。

条文概要は次の通り。

指定管理者による管理

○施設の管理を指定管理者に行わせることができる。

指定管理者の業務の範囲

○利用の許可
○施設・設備の維持管理

○その他町長等が必要と認める業務等

指定管理者が行う管理の基準

○法令、条例、規則その他町長が定める規定に従い施設を管理する

個人情報保護義務 利用料金

○町長の承認を得て、指定管理者が利用料金の設定を行い、自らの収入とすることができる
(有料施設)
全員賛成により可決

川西町生活安全条例を制定

安全・安心の生活の実現へ向けて

この条例は、町民の生活の安全に関する意識の高揚及び自主的な活動を推進するとともに、犯罪、事故等の発生を未然に防止し、安全で快適な生活を実現することを目的とするもの。町、町民及び町内において事業活動を行うものは、相互に協力し、安心して生活するこ

とができる安全なまちづくりを推進するものとし、これを推進するに当たっては、良好な地域社会の形成が重要であることを認識し、これを育むよう努めるものとする。これを基本目標としている。

全員賛成により可決

人事

教育委員会委員の任命に同意



平成十七年九月三十日で任期満了となる教育委員の任命について全会一致で同意した。

大淵 紘一（再任）

住 所：川西町大字玉庭五三三七番地
生年月日：昭和一五年九月二四日



表紙の写真



働く人

「やりがいがあります！」

尾長島 遠藤 愛さん

見事に晴れ上がった空の下、大型コンバインで刈取りに精を出す愛さんの勇姿！

若々しい頬の輝きからは四歳・三歳の二人の男児のお母さんとは思えない。聞いてガツカリする人も。

御主人は東部RSのオペレーター。ご両親と共に大規模経営を営む。水田12ha、ぶどう三品種で80a、果樹類は愛さんの担当という。「やりがいがあります！」とはご本人の弁。長井市伊佐沢の出身

意見書



道路は最も重要な社会資本だ

道路特定財源の制度を維持せよ！

重量税・ガソリン税など

道路は最も重要な社会資本。人をつなぐ、物をつなぐ、社会活動の一切をつなぐ。また今日の道路は都市と地方の格差の象徴でもある。道路特定財源の制度維持は地方の「のろし」でもある。

道路整備予算の確保：

意見書

自動車重量税を含む道路特定財源については、暫定税率、国と地方の配分、地方道路整備臨時交付金制度など平成十五年度以降五カ年間の措置として法律で定めているところであり、道路整備を計画的かつ着実に推進するため現行の枠組を堅持すること

以上地方自治法九九条の規定により、意見書を提出します

補正

一般会計

歳入歳出それぞれ二九一九万二千円を追加し、総額を八二億四一〇万四千円とするもの。

歳出の主なものは小松保育所整備事業六百万円、五十周年記念さくら植樹事業一〇二〇万円、管外保育料一五二八万一千円などの増、幼稚園施設事務経費、賃金三百二十四万四千円の減など。
歳入の主なものは、繰越金六四四二万四千円、町債一三五〇万円などの増。

全員賛成により可決

国保

歳入歳出それぞれ一八万九千円追加し、総額を一七億七八〇六万五千円とするもの。

歳出の主なものは、退職者医療給付費交付返還金一一四万八千円が主なもの。

歳入は基金繰入金八五八千円を減額し前年度繰越金二〇四万七千円を増額するもの

全員賛成により可決

介護

歳入歳出それぞれ七二四万一千円を追加し、総額を一三億三三一九万七千円とするもの。

歳出は国庫支出金、支払い基金交付金返還金四九七万六千円、介護給付費準備基金積立金一八二万八千円を増額するもの

歳入は一般会計繰入金一〇〇万五千円、前年度繰越金六二二万八千円、介護給付費準備基金金利子八千円が主なもの

全員賛成により可決

訪問介護 老看

歳入歳出それぞれ五千円を追加し総額を一九一二万八千円とするもの。

歳出は訪問看護車の燃料費、歳入は一般繰入金

下水道

歳入歳出それぞれ二四四九万七千円を減額し、総額八九一九二万二千円とするもの。

公債費、町債償還元金三八八五万九千円、特定環境保全公共下水道建設費一〇〇〇万円を減額するものが主なもの。

全員賛成により可決

要望書

町道上六角平谷地線の一部改良について

農業委員会交付金の確保等に関する特別要請

委員会 レポート

厚生常任委員会

地域の人々の安全を自ら守る

七月二十八日、消防団をとりまく現状と課題について、消防団幹部と懇談をした。団員は殆ど就労しているため団員の減少に歯止めがかからず、消防機能が果たせるのか。緊急時に、ポンプ車、積載車の操作に問題はないか。また、団員の報酬が適正か、消防広域化などが話題となった。各分団

長からは異口同音に団員の減少と部・班の統合が報告された。今後、火災を出さない予防啓発を主に、地域、自治会の一層の理解で初期消火に努める。さらに、水害等の災害防止、救急人命対策に重きをおく傾向にならざるをえないことが感じられた。

総務常任委員会

幼・保一元化を探る

二本松市

学前の教育と保育を一体として捉えることが必要な時期となっている。

去る、七月二十五日、六日の二日間福島県二本松市、学校法人まゆみ幼稚園及び浪江町の(株)東遊記への先進地調査を行った。まゆみ幼稚園は教育、保育の内容や施設整備等の在り方について検討される幼保総合施設の実現に向けて平成十七年度にモデル事業とし、十八年度より本格実施を行う。本町においても、延長保育を求める声も強く、就

分団長らと話し合う



産業建設常任委員会

土地利用型作物の産地を目指して

平成十七年八月九日、本町の農業振興における産地づくり対策の現地調査を行った。町内において新たな土地利用型作物による産地づくりを實踐している「農事組合法人夢里」、「アスパラガス圃場」、「ダリア圃場」、「たらの芽圃場」の四カ所を調査した。

生産性の高い農業の確立と農産物の高付加価値化の実現を目指し、地域農業の継続と発展への先駆者であり、年々、作物ごとに栽培面積、会員数、出荷生産量も増加傾向にある。今後、本町農業の新たな作物の産地として

も大きく期待できるものと痛感した。



アスパラガス圃場で

浪江町の(株)東遊記は、本町において試行が行われているデマント型乗り合い交通の先進地調査である。平成十五年よりスタートした「eまちタクシーぐるりんこ」は、まちづくり会社が運行主体

町づくり株式会社が大活躍 浪江町

となり、商店街は、タクシー券の販売、傘の貸し出し等、徹底して「まちづくり、商店街の活性化」が前面にでている特長があった。

今後の日程

- ◎総務 学校問題に関する調査
- ◎厚生 福祉事業に関する視察
- ◎産建 大型畜産事業進行に伴う環境調査
- ◎産建 (株)タリヤパークサービス役員との懇談会
- ◎産建 除雪対策に関する先進地視察



ワー、アチアチアチ… 玉庭保育所で

町民の声

ダリヤの里 川西は、とても いい!

・たいら ちえこ

JA川西支店（購買）勤務
祖父母・夫・二男の五人家族
JA女性部玉庭支部副支部長



平 智恵子 川西町大字玉庭

秋色の季節がすすむ中、稲刈り作業も真っ最中で、活気あふれる空気を感じます。先頃（九月十六日～九月十九日）東日本和牛能力共進会が当町の畜市場を主会場として開催されました。

大イベントに感動

久しぶりの大イベントになりますが、とてもすごい事だと思っています。

牛との関わりが無い方達には、何の行事か知り得ない事かも知れませんが、和牛の国体と云っても過言ではないと思います。北は北海道から南は群馬県まで、一道九県から選抜された牛が、種牛部門と枝肉部門に分かれ競い合っています。

私もそんなに知識がある訳ではありませんが、仕事上で今年の二月頃から少し関わっていましたが、会場へ行って初めて、事の大きさに驚き感動し鳥肌が立つ思いで

した。こんな大きな大会が我町で行われているという喜びがありました。この日を迎えるために関係者は、何程大変だったことか。御苦労様でした。心からそう思っています。

ダリヤで歓迎

会場の入口近くには、ダリヤの花が一面に咲き誇り、とても美しく素晴らしいものでした。

日々の丹精に栄光を



いつもは、ひっそりとしている我町ですが、会場に足を運ばれた県内外の皆さんに、「ダリヤの里川西町」を知っていただけた事は、嬉しい限りです。九月十六日の夜は、川西町団地センターで、前夜祭が行われ、二百名を超える参加者がおられました。大きな鍋を目の前にして、米沢牛をふんだんに入れた芋煮を食べていただきました。山形の芋煮会の事は、知っている方が多く好評でした。

私達がどこかに旅をする時に、あの町のあれを見たいーあれが食べたーい！と思うのと同じように川西町のあれを見たい！あれが食べたいから行ってみたい！というものを全国に発信し、訪れて下さった皆さんに満足していただける川西町にぜひともなりたいたいです。

「ダリヤの里川西」はとてもいい町です。

高齢者は外に出る機会を つくりましょう

南陽市・佐藤温子さん

わがまちをよそから見れば...



くさとう あつこ
昭和33年川西町洲島生まれ
現在、南陽市在宅介護
支援センター
介護支援専門員

まだ川西町民の延長上にいるつもりでしたが、昭和六十年に嫁ぎ、二十年の節目であったことに気がつきました。今年初夏の土曜日のことです。実家の父より電話があり、「梯子から落ちた」とのこと。兄夫婦は農繁期の為、留守であるということだし、急いで駆けつけてみると幸い怪我は、大事には至らなかつたけれど、元氣だとはかり思っていたはずの父も大正生まれであった。

閉じこもり

防止のために

車の運転が出来なければ行動範囲は、極端に狭くなり通院もままならぬ。高齢者の移送に関し何か手だてを考えないと、閉じ込めを誘発する危険性ははらむことになる。

介護保険の利用をできるだけ遅く開始する方法として、日々、予定のある生活が望ましく、その際に必要に応じた移動手段が問題になります。川西町には県内初という話題のデマンドがあります



ね。高齢者が気兼ねなく受診や「まどか」温泉に行けることは素晴らしいと思います。誰しも好きな時に出掛けてみたい、閉じ込めってばかりでは精神衛生上よろしくないようで、笑顔にはなれません。

心の健康は笑顔から

元気の秘訣は笑いからです。心の健康に欠かせないのは笑顔です。アキレス腱のような存在の移送方法に目を向けられ感服しています。

現在、南陽市でも、来春四月からの介護保険改正にともない、市町村独自の介護予防の事業が検討されており、アイディアいっぱい創意工夫が必要な時期だからこそひらめきが欲しいと思っています。周囲の声を聞く。こぼれ話が実現していく体制など、住みよい環境に生活を変えていく一番のキーパーソンは町民です！
何よりみなさん、お元氣でお過ごし頂きたいと願っております。

定例会は3、6、9、12月です。くわしくは議会事務局へ
行ってみませんか
議会傍聴
手続きはかんたん。だれでも傍聴できます。

編集のなごり

▼実りの秋、二〇〇五年度の作柄は一〇一だが、今年度産米はカメムシによる斑点米被害が多い。売れる米作りの前提である高品質米の生産に向けて被害の軽減が最も大切。そのためには、本田への農薬散布はもちろん、集落ぐるみでの畦畔、道路のり面等の草刈りが重要

▼転んで骨折し、寝たきりになる高齢者は少なくない。転倒を未然に防ぐための教室や体操が全国的に広がっている。「YOSAKOIを踊ると転ばない」。踊りによる転倒予防効果が六月、日本リハビリテーション医学会で発表された。この踊りは前傾姿勢で片足立ちなど平衡感覚を必要とする運動要素が含まれているとか。(照)

- 委員長 黒澤 巖
副委員長 高橋 照夫
委員 横山 明博
島貫徳右衛門
佐藤 興市
高橋 建一